

『日本アジア研究』第15号(2018年3月)

授受補助動詞を用いた文の表現類型に関する 習得研究

—ロシア語を第一言語とする学習者を対象として—

吉川巧也*

本稿は、ロシア語を第一言語とする日本語学習者を対象に、授受補助動詞が用いられる文の表現類型に着目したアンケート調査を行い、習得に影響を与える要因と指導上の注意点を述べた。アンケート調査の結果、「叙述」、「指示」を表す文は「てくれる」よりも「てもらう」の方が正答率が低く、習得が困難であることが明らかになった。また、「てくれる」は、正答率が比較的高かったものの、誤答パターンから、「てあげる」との誤りを起こしやすい傾向が見られた。

これまでの授受補助動詞の習得研究は、「人称」、「方向性」に関する研究が多く、「表現類型」扱ったものは少ない。本研究では、「表現類型」の観点から、習得に影響を与える要因を言及した点に意義があると思われる。

キーワード：授受補助動詞文、表現類型、日本語教育

1. はじめに

日本語の授受補助動詞は、欧米の諸言語などにおいて、補助動詞としては使われないという理由から、習得が困難であることが指摘されている(山田 2004 など)。例えば、「私はメアリーに本を買った。」と「私はメアリーに本を買ってあげた。」を英語に訳すと、いずれも「I bought Mary a book.」のようになり、「～てあげる」の有無の違いが反映されない(山田 200 : 342)。そのため、日本語の授受補助動詞によって表される恩恵性を理解することが難しく、誤用や回避を起こすと思われる。この日本語授受補助動詞の習得に関して、「人称」、「方向性」に注目した研究は多数見られるが、授受補助動詞が用いられる文の表現類型に着目した研究は少ない。また、ロシア語を第一言語とする日本語学習者を対象とした授受補助動詞の習得研究は管見の限り見当たらない。授受補助動詞には、「てやる」といったぞんざい形や、「て差し上げる」などの丁寧形が存在する(山田 2004 など)が、本研究では基本的な形式である「てあげる／てくれる／てもらう」が用いられる文の表現類型(「叙述」「依頼」など)に着目し、ロシア語を第一言語とする日本語学習者を対象として、授受補助動詞の習得上の問題点とその要因を明らかにする。

* よしかわ・たくや、埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程

本論文は、鳴門教育大学大学院学校教育研究科修士学位論文(2017・3)の一部を加筆・修正したものである。

2. 前提的な事項

本章では、本研究の調査や分析の前提となる事柄を整理する。はじめに 2.1 節で授受補助動詞が持つ意味や使用規則を整理する。次に 2.2 節で、授受補助動詞が用いられ文にはどのような表現類型が存在するのかを整理する。最後に 2.3 節で、日本語の授受補助動詞を用いた文に対応するロシア語の表現方法を整理する。

2.1 授受補助動詞が持つ意味

庵他(2000: 106-108)によると、授受を表す「あげる／くれる／もらう」は、「与え手」側と「受け手」側の二つの視点から同じことがらを表現するという特徴を持つ形式群である。また、「あげる／くれる／もらう」は、「てあげる／てくれる／てもらう」という形で恩恵行為の授受を表す補助動詞としての用法を持つと指摘している。森田(2002)も授受補助動詞は、「行為の恩恵賦与を表す」としている。恩恵行為の授受を表す補助動詞は、「授受補助動詞」(『新版日本語教育辞典』: 460 など)と呼ばれている。

庵他(2000)や山田(2004)などの先行研究を踏まえ、授受補助動詞の使用規則をまとめると、以下のようになる。

授受補助動詞は、主語が「恩恵の与え手」(以下「与え手」と呼ぶ)であるか、「恩恵の受け手」(以下「受け手」と呼ぶ)であるかによって「てあげる／てくれる／てもらう」の使用が決定される。「与え手」が主語になって、話し手から聞き手や第三者へ、あるいは聞き手から第三者への、恩恵の移動を表す際には「てあげる」を使用する。逆に、聞き手や第三者から話し手へ、あるいは第三者から聞き手への移動を表す場合には「てくれる」を使用する。「てもらう」は恩恵の移動を「受け手」が主語になって表現したものである。以上のことを踏まえ、次節では授受補助動詞が用いられる文の表現類型を整理する。

2.2 授受補助動詞が用いられる文の表現類型

まず、授受補助動詞が用いられる文の典型的な表現類型として、「恩恵行為の授受」のみを表す文を(1)~(3)に提示する。こうした表現類型を以下では「叙述」と呼ぶこととする。

- (1)田中さんに本を貸してあげました。(てあげる・叙述)
 - (2)林くんが、けがをした僕の代わりに走ってくれました。(てくれる・叙述)
 - (3)祖母に教えてもらった歌を歌います。(てもらう・叙述)
- (いずれも庵他 2000: 110-112, ただし括弧内は引用者による)

「叙述」の他に、「依頼」、「指示」等を表す文でも用いられる場合がある。各授受補助動詞が、どのような表現類型で使用されるのか、以下で具体例と基本的な使用規則を示す。

まず「てくれる」が用いられる文の表現類型を整理する。森田(2008: 132)は「許可・許容」(以下では「許可」と呼ぶ)と「希求・懇願」(以下では「願望」と呼ぶ)といった意味を表す際に「てくれる」を用いることができることを指摘している。具体例が(4)~(5)である。

- (4)今からでも試験を受けさせてくれるといいが。(てくれる・許可)
(5)わかってくれよ。(てくれる・願望)
(いずれも森田 2008 : 132, ただし括弧内は引用者による)

加えて、守屋(2002 : 3-5)は、「指示」、「依頼」、といった意味を表す文で「てくれる」を用いることができると指摘している。具体例が(6)~(7)である。¹

- (6)君、明日の会議の準備をしておいてくれ。(てくれる・指示)
(7)その資料を貸してくれませんか?(てくれる・依頼)

なお、「依頼」、「願望」の関係について、山田(2004 : 253-254)は、「願望」という表現自体、聞き手の誠実さに働きかけることによって「依頼」を表しうる表現であるため、両者の境界ははっきりしないと指摘している。このことを踏まえ、以下では、「依頼」と「願望」は区別せず、「依頼」と表記することにする。

次に、「てもらう」が用いられる文の表現類型を整理する。森田(2008 : 132)は、「叙述」に加え、「命令」(以下では「指示」と呼ぶ)、「依頼」、「許可」といった意味を表す際に「てもらう」を用いることができると指摘している。具体例が(8)~(10)である。

- (8)君には外回りをやってもらおう。(てもらう・指示)
(9)パソコンを持ってきてもらえますか?(てもらう・依頼)
(10)私にも、ひとこと言わせてもらいます。(てもらう・許可)
((8), (10)は森田 2008 : 132, ただし括弧内は引用者による)

また、山田(2004 : 254-256)は、上記の表現類型に加え、「願望」の意味を表す際に「てもらう」を用いることができると指摘している。この「願望」は、前述したように「依頼」と表記する。具体例が(11)である。

- (11)あの本を送ってもらいたい。(てもらう・願望)
(山田 2004 : 254, ただし括弧内は引用者による)

「てあげる」は、基本形の場合、「叙述」に加え「依頼」、「願望」、「指示」、「許可」といった表現類型の文で用いることができると考える。具体例が(12)~(15)である。

- (12)宿題手伝ってあげて? (てあげる・依頼)
(13)宿題を手伝ってあげたい。(てあげる・願望)
(14)席を譲ってあげなさい。(てあげる・指示)
(15)(先生が学生に)仕方ないから後日再テストを受けさせてあげよう。

¹ 「てくれる」は、「勧め」を表す際に用いることができるという指摘もあるが、(基本的な形式の場合)命令形「てくれ」を用いるため、本稿においては「指示」として扱う。
例 おいしいお土産を買ってきたから、ぜひみんな食べてくれ。(てくれる・指示)

(てあげる・許可)

ただし「てあげる」の「依頼」、「願望」、「指示」、「許可」に関しては、本稿では以後取り扱わない。理由は、「願望」、「指示」、「許可」の場合、「てあげる」は行為者が話し手であるという点で「てくれる」、「てもらう」と異なっており、「てくれる」、「てもらう」との比較が困難と考えられるためである。これらの分析は今後の課題とする。

上記に基づき、授受補助動詞が用いられる文の表現類型と、代表的な形式をまとめたものが表1である。

表1 授受補助動詞が用いられる文の表現類型と代表的な形式

(次節以降も取り扱うものは太字)

表現類型 動詞	叙述	依頼 (願望を含む)	指示	許可
～てあげる	・てあげる	・てあげて？	・てあげろ	・使役+てあげる
～てくれる	・てくれる	・てくれる？ ・てくれませんか？	・てくれ	・使役+てくれる
～てもらう	・てもらう	・てもらえる？ ・てもらえますか？	・てもらう	・使役+てもらう

2.3 ロシア語の物・行為の移動を表す動詞

アサノワ(2013: 35-36)は、日本語授受本動詞は日本語学習者にとって習得しにくい項目の1つであると指摘している。この困難さを生む理由として、ロシア語を含む多くの外国語が「あげる」(「дать」(発音: dat'), 「отдать」(発音: otdat') など)、「もらう」(「брать」(発音: brat'), 「получить」(発音: polchit') など)の2項の対立であるのに対し、日本語は「あげる」、「くれる」、「もらう」の3項を使い分ける必要があることが挙げられる。具体的な使用方法は、(16)～(18)である。^{2,3}

(16) この本をあなたに(あげます／与えます)。

Эту книгу даю вам.
etu knigu dayu vam
この 本 あげる／渡す あなたに

(『研究社露和事典』: 425, ただし 3-4 行目は引用者による。)

(17) 図書館員が私に本を(くれた／渡した)。

² ロシア語の例文は以下の順序で提示する。

1 行目: 日本語文, 2 行目: 露文, 3 行目: ローマ字表記, 4 行目: 逐語訳

³ 例文中の動詞について, (18)の「даю」は「дать」の一人称単数形, (19)の「дал」は「дать」の男性主語の過去形, (20)の「получу」は「получить」の一人称単数形を表す。

Библиотекарь дал мне книгу.
 bibliotekar' dal mne knigu
 図書館員 くれた／渡した 私に 本を

(18) 図書館で本をもらおう／受け取る。

Эту книгу получу в библиотеке.
 etu knigu poluchu v biblioteke
 この 本を もらう／受け取る【前置詞】 図書館で

「дать」や「получить」は、(16)～(18)のように、授受本動詞として恩恵を表す場合もあるが、恩恵を表さない(「渡す」や「受け取る」に相当する)場合もある。このことから、ロシア語授受本動詞は、恩恵を表す日本語の授受本動詞と比べて意味の幅が広いといえる。

これに対し、授受補助動詞に対応するロシア語はない(授受動詞は補助動詞としては使えない)。ロシア語では、日本語の授受補助動詞が用いられる文の表現類型に対して次のような文法表現を用いる。⁴

①叙述

彼が夕飯を作るのを手伝ってくれた。

Он помог мне готовить ужин.
 on pomog mne gotobit' uzhin
 彼 手伝う 私 作る 夕飯
 彼が私に夕飯を作るのを手伝った。

露文を直訳をした場合、一般的には恩恵性の意味を含意せず事実を述べる文となる。

②依頼

すみません、ウエイトレスさん、メニューを持ってきてもらえませんか。

Будьте добры, девушка, принесите мне меню.
 bud' te dobrui devushka prinesite mne menu
 すみません ウエイトレス 持ってくる 私に メニュー
 すみません, ウエイトレスさん, 私にメニューを持ってきて。

(藤沼 2009 : 13, 3-5 行目は引用者による)

宇多・原(2007 : 157)は、「依頼」を表す文について、日本語の場合は命令形を使用せず、「していただけませんか」、「していただけるとありがたいのですが」と言うが、ロシア語では不自然になる場合が多くなるため、命令形を用いたほうがよいと指摘している。以下で述べる「指示」とは異なる点として、宇多・原(2007 : 157)や藤沼(2009 : 13)は婉曲表現(будьте добры や пожалуйста など)を用い、丁寧な表現にする方法を多数挙げている。

④指示

⁴ 1 行目、一般的な日本語文、4 行目は露文を日本語に直訳した文である。

本を開いてください。

Откройте книги.

otkro'te knigu

開く 本を

本を開いて。

(稲垣 1997 : 169, ただし 3-5 行目は引用者による。)

安徳他(2011 : 60)は、「しなさい」、「してください」といった表現は、一般的に命令形を用いるとしている。

⑤許可

たばこを一服すわせてください。

Разрешите закурить.

razpeshite zakurit'

させてください たばこをすう

たばこをすわせてください。

(『研究社露和事典』: 1908, 1 行目, ただし 3-5 行目は引用者による。)

「разрешить」(訳:「許可を求める」)を使用し、使役文にする。『研究社露和事典』: 1908 によると、何かをしようとして相手に話しかける時のていねいな表現として用いるとしている。

本節で述べたことから分かるように、ロシア語の場合、授受本動詞は補助動詞としては使えない。また、日本語の授受補助動詞が用いられる文の各表現類型は、ロシア語では別の方法を用いて表現される。

3. 先行研究

ロシア語を第一言語とする日本語学習者を対象とした授受補助動詞の習得に関する研究は、管見の限り見当たらない。そこで本章では、幅広い第一言語の学習者を対象とした研究(大塚 1995(英語・中国語・韓国語), 坂本・岡田 1996(英語・中国語・ベトナム語など), 萩原 2007(英語・韓国語))を概観する。

大塚(1995)は、日本語学習時期別に授受動詞の使用頻度を調査し、日本語母語話者の使用頻度との比較を行った。調査の結果、初級学習者は「てあげる」を過剰に使用する傾向が見られたが、日本語学習が進むにつれ「てあげる」の使用は減り、「てくれる」、「てもらう」の使用が伸び、場面に適切な表現を選択できるようになっていった。しかし「てくれる」の出現率は、日本語学習が進んでも日本語母語者の出現率の半分以下であった。話し手の視点と文の主語が一致しない「てくれる」の使用は容易ではないことを指摘した。

坂本・岡田(1996)は、授受本動詞と授受補助動詞の習得状況を知るために、空欄補充式(授受動詞を選択し適当な形に変化させる)テストを行った。調査の結果、本動詞か補助動詞にかかわらず、「くれる」の習得が大きな問題となっていると指摘している。加えて、「てあげる」と「てくれる」との混同が多く見られることを指摘している。坂本・岡田(1996)も、視点の置き方を正確に把握することが、授受本動詞と授受補助動詞の習得に繋がると結論付けている。

萩原(2007)は、各授受補助動詞の中で、学習者にとって最も判断が難しいも

のはどれかを明らかにするために、聴解による文法性判断テスト⁵を行った。調査の結果、授受補助動詞の中でも、「てもらう」の判断の正確性が低いことが分かった。その要因として、「てくれる」と「てもらう」間の判断が困難であったことを調査結果に基づいて指摘している。特に、履修年が短い学習者(2年)に「てくれる」、「てもらう」間の誤答が顕著に見られたことが分かった。動作主が恩恵を与え、受益者が恩恵を受けるということはコミュニケーションの際に同時に起こるため、「てくれる」と「てもらう」は混同しやすいと指摘している。

以上のように、授受補助動詞に関する先行研究においては、様々な方法で調査が行われてきた。また、これらの先行研究は、学習者の母語やレベルも幅広く行われており、いずれも、「てくれる」の習得が困難であることが指摘されている。しかしながら、次のような課題も残されている。

- ① ロシア語を第一言語とする学習者を対象とした研究は管見の限り見当たらないため、「てくれる」の習得が困難であるというのがロシア語を第一言語とする学習者にどの程度当てはまるのかが不明である。
- ② 授受補助動詞の習得に関する先行研究において、授受補助動詞を用いた文の表現類型がすべて網羅されているかどうか不明である。

4. 学習者を対象としたアンケート調査の結果と考察

本章では、4.1 節にて調査の概要を提示する。4.2 節と 4.3 節で調査結果の提示と分析を行い、それを踏まえ、4.4 節で、ロシア語を第一言語とする学習者に授受補助動詞を指導する際の注意点について述べる。

4.1 調査概要

先行研究や予備調査⁶では、授受補助動詞の中でも「てくれる」の習得が困難であることが分かった。しかしながら、先行研究にロシア語を第一言語とする学習者を対象としたものがない。また、「てくれる」が用いられる文の中でもどの表現類型の習得が困難であるかについては明らかにされていない。以上のことを踏まえ、次の2つの問題を明らかにするために、学習者を対象としたアンケート調査を行った。

- ① 授受補助動詞の典型的な表現類型である「叙述」において、「てくれる」の使用は、「てあげる」、「てもらう」の使用と比べ困難と言えるのか。
- ② 「行為者が聞き手」という共通点を持つ「てくれる」と「てもらう」は、文の表現類型によって習得のしやすさは異なるか。

対象者は、キエフ国立言語大学(ウクライナ)に所属しているロシア語を第一

⁵ 文を見て正しいと判断したら OK、不正確だとしたら not OK と解答する形式である。

⁶ 本アンケート調査を行うに当たって、ロシア語を第一言語とする学習者と日本語教師を対象に予備調査を行った。その結果、日本語の授受補助動詞は、日本語学習者にとって習得するのが困難であり、誤用に加え、回避する傾向もあることが分かった。また、教師も教えるのが難しいと感じていることが分かった。特に、ロシア語本動詞では直訳できる語がない「くれる」は、教師自身も難しさを感じていることが分かった。

言語とする日本語学習者 28 名である。調査は 2016 年 11 月に実施した。

調査の方法は、多肢選択式のアンケート用紙を使用した。設問数は計 18 問である。表 2 に○印で示した項目について、2 問ずつ設問を作成した。調査項目は、稿末の【資料①】に記載する。

表 2 アンケート調査を実施した表現類型

表現類型 動詞	叙述	依頼 (願望を含む)	指示	許可
てあげる	○	—	—	—
てくれる	○	○	○	○
てもらう	○	○	○	○

4.2 調査の結果

調査結果を下記の表 3 と表 4 にまとめる。表 3 は授受補助動詞別の正答率をまとめたものであり、表 4 は、設問別の正答率をまとめたものである。

表 3 授受補助動詞別の正答率

	点数／満点	正答率
てあげる	40/56	71.43%
てくれる	160/224	71.43%
てもらう	111/224	49.55%

表 4 設問別正答率

動詞 表現類型	てあげる		てくれる		てもらう	
①叙述	問題 5 20/28	問題 11 20/28	問題 3 21/28	問題 16 21/28	問題 8 16/28	問題 13 16/28
	71.43%	71.43%	75.0%	75.0%	57.14%	57.14%
②依頼			問題 2 10/28	問題 10 20/28	問題 6 7/28	問題 15 20/28
			35.71%	71.43%	25.0%	71.43%
③指示			問題 1 26/28	問題 17 22/28	問題 9 11/28	問題 18 11/28
			92.86%	78.57%	39.29%	39.29%
④許可			問題 7 15/28	問題 14 25/28	問題 4 17/28	問題 12 13/28
			53.57%	89.29%	60.71%	46.43%

先行研究においては、授受補助動詞の中でも「てくれる」の習得が困難であると指摘されているが、表 3 および表 4 から「てくれる」よりも「てもらおう」の習得が困難であることが分かる。次の 4.3 節と 4.4 節では授受補助動詞の習得に影響を与える要因について、詳しく考察する。

4.3 授受補助動詞が用いられる文の表現類型別正答率の比較

本節では、授受補助動詞が用いられる文の表現類型別に調査結果の考察を行う。まず、4.3.1 節にて授受補助動詞の典型的な表現類型である「叙述」の調査結果の考察を行う。次に 4.3.2 節から 4.3.3 節にて「行為者が聞き手」という共通点を持つ「てくれる」と「てもらおう」について、これらが用いられる文の表現類型別に考察を行う。まず、問題間で正答率に比較的差がなかった「指示」の考察を行い、次に、問題間で差が見られた「依頼」、「許可」の考察を行う。⁷

4.3.1 「てあげる」「てくれる」「てもらおう」の考察：「叙述」

てあげる：叙述

問題 5. (困っている B を見て) A: 明日の準備、_____。

B: え? 本当? 助かるよ。ありがとう!

a 手伝ってくれるよ b 手伝ってあげるよ c 手伝ってもらおうよ d 手伝ったよ
e ()

正答率：71.43%

問題 11. 私：トムさんが日本へ来たら、私が_____。

トム：ありがとう。来年必ず日本へ行くよ。

a 案内してもらおうよ b 案内してくれよ c 案内してあげるよ d 案内したよ
e ()

正答率：71.43%

てくれる：叙述

問題 3. 彼女がぼくのためにケーキを_____。

a 作ってくれた b 作ってあげた c 作ろう d 作って e ()

正答率：75.0%

問題 16. A: 友達が私に面白い本を_____よ。

B: へー。どんな本なの。

a 紹介してもらった b 紹介してあげた c 紹介しよう d 紹介してくれた
e ()

正答率：75.0%

⁷ 問題間の正答率が 20%以上のものは、授受補助動詞間や表現類型によるものではなく、設問に原因があると考えられる。以上のことを踏まえ、本研究では「依頼」、「許可」を表す文の問題においては「てくれる」、「てあげる」間の考察は行わない。

てもらう：叙述

問題 8. 昨日、マイクさんから日本語を勉強するための本を_____。

- a 貸してあげました b 貸してもらいました c 貸しました d 貸してくれました
e ()

正答率：57.14%

問題 13. (学校で) 私は明日、ゆうた君にスピーチの内容を_____つもりだ。

- a 考えよう b 考えてもらう c 考えた d 考えてくれる e ()

正答率：57.14%

「てあげる」と「てくれる」の正答率が高かった要因は、日本語教科書における授受補助動詞の記述にあると考えられる。

主語となる人物が話し手にとって近い人物であるという共通点を持つことから、多くの日本語教科書において、「てあげる」と「てもらう」は同時に扱われる。その中でも、まず「てあげる」が扱われることが多く、学習者にとって「てあげる」が印象に残りやすいと考えられる。同時課で扱われるにも関わらず、「てもらう」が用いられ「叙述」を表す問題はいずれも正答率が 60% 以下であったことから、やはり「てあげる」が印象に残りやすいと考えられる。

「てあげる」が印象に残りやすいという点について、誤答パターンからも顕著な結果が得られた。「問題 3 叙述 正答：てくれる」において、7 名(全体の 25%)の学習者が「てあげる」と誤答した。また「叙述」以外にも、以下の問題で「てあげる」間の誤答が見られた。以下で代表例を 2 つ示す。

「問題 2 依頼 正答：てくれる」12 名の学習者(約 43%)が「てあげる」と誤答

「問題 6 依頼 正答：てもらう」18 名の学習者(約 64%)が「てあげる」と誤答

以上のことから、「てあげる」を過剰に選択していることが分かる。今後の課題として、記述式の問題でも「てあげる」を正確に使用できるかを確認する必要がある。

「てくれる」に関しては、前述したように「てくれる」が正答となる問題に対し「てあげる」を過剰に当てはめる傾向が見られたものの、正答率は高かった。「てあげる」を過剰に当てはめる傾向が見られた要因の 1 つとして、ロシア語の「与え手主体」という点から「あげる」「くれる」は区別しないという性質が習得に影響を与えている可能性があると考えられる。一方、正答率が高かった要因としては、「てくれる」は、日本語教科書において独立して扱われており、教師も学習者にとって習得が困難であることを理解している可能性が高いため、習得が進んでいると考えられる。

4.3.2 「てくれる」と「てもらう」の考察：「指示」（問題間に差のなかった表現類型）

てくれる：指示

問題 1. 先生：では、みなさん、教科書の 15 ページを_____。

A さん、読んでください。

A：はい。

a 開いてあげます b 開いてもらいます c 開きました d 開いてください e ()

正答率：92.86%

問題 17. 上司：その荷物を部屋まで_____。

部下：はい。これですね。わかりました。

a 運んでくれ b 運んであげる c 運んでもらった d 運んだ e ()

正答率：78.57%

「てくれる」を使用する「指示」の文の問題はいずれも正答率が高かった。問題 1, 17 は同じ「指示」でも「てください」、「てくれ」といったように、表現が異なる問題を作成したが、正答率が 70% を上回った。問題 1 に関しては、正答が命令形の「てくれ」ではなく、典型的な「指示」を表す形ではなかったが、問題文(先生：では、みなさん、教科書の 15 ページを開いてください。)が日本語教育機関にて学習者がよく耳にする文であるため、正答率が高くなったと考えられる。一方、問題 17 の正答は、「てくれる」の命令形である「てくれ」形式の選択肢は正答のものしかなかった。直接的な「指示」を表す命令形は、授受補助動詞においては「てくれ」のみであることといった特徴を持つことから正答率が高くなったと考えられる。以上の点から、正答率が高くなったと考えられる。

てもらう：指示

問題 9. 上司：今月までにこの仕事を_____ことになった。

部下：はい、わかりました。がんばります。

a やってあげる b やってもらう c やってくれる d やらない e ()

正答率：39.29%

問題 18. 社長：君には来月から大阪で_____。

社員：分かりました。

a 働いてあげる b 働いた c 働いてくれる d 働いてもらう e ()

正答率：39.29%

一方、「てもらう」を使用する「指示」の文の問題はいずれも正答率が低かった。姫野(2006)は、話し手に恩恵性が移動する文の場合、「てくれる」とは異なり「てもらう」は命令形を使用することができず機能的には「指示」を表すような文でも、直接的な表現は避けており、これは「てもらう」にしかみられないと指摘している。以上のことから習得が困難であるといえる。

4.3.3 「てくれる」と「てもらう」の考察:「依頼」、「許可」(問題間に差のあった表現類型)

4.3.3.1 依頼

てくれる: 依頼
正答率高 問題 10 : 71.43% 正答率低 問題 2 : 35.71% 誤差 35.72%

問題 10. 子ども A : だれか明日ぼくと _____ かな。
子ども B : ぼく時間あるよ。あそぼう。
a あそんでもらった b あそんであげない c あそんでくれない d あそんだ
e ()

問題 2. A : ごめん。そのバッグ _____ ?
B : はい。とても重いですね。
a 取ってくれる b 取ってあげる c 取ろう d 取らない e ()

「てくれる」を使用する「依頼」の文の問題について、問題 10 の正答は「てくれる」に否定語が付く「あそんでくれない」であり、正答率は約 70% と高かった。一方、問題 2 の正答は「てくれる」に否定語が付かない「取ってくれる」であり、正答率は約 35% と低かった。このことから、学習者は、授受補助動詞に否定語が付く用法は「てくれる」と「てもらう」の「依頼」、「許可」のみであることを理解しているため正答率が高かった可能性がある。

てもらう: 依頼
正答率高 問題 15 : 71.43% 正答率低 問題 6 : 25.0% 誤差 46.43%

問題 15. A : すみません。書類をチェック _____ ?
B : いいですよ。見せてください。
a したい b してもらえませんか c してあげませんか d した e ()

問題 6. A : もうお昼ご飯食べた？朝早く起きてお弁当を作ったから、
良かったら _____ んだけど。
B : いいの？ありがとう。
a 食べてもらいたい b 食べてあげたい c 食べてくれた d 食べた e ()

「てもらう」を使用する「依頼」の文の問題について、問題 6 の正答は「食べてもらいたい」である。1.3 節で述べたように、ロシア語では、「たい」表現は仮定法のような婉曲表現ではなく、命令形のような直接的な表現を用いるため、日本語とロシア語では表現方法が異なる(表 5 参照)。このことから、正答率が約 25% と低かったと考えられる。問題 15 の正答は「～してもらえませんか」である。これは、丁寧形かつ疑問形式であり、「てもらう」の「依頼」において最も基本的な形であり、日本語教科書でもよく用いられる形式であるため、正答率が高かった(約 70%)といえる。しかし、「てもらう」の「依頼」の問題はいずれも、「てあげる」と誤答した割合が高かったため、「依頼」の際に用いる形式(疑問文や「たい」文)を指導する際に注意が必要であるといえる。

表5 「依頼」と「指示」の行為決定権を保持している人物

言語	意味タイプ	「依頼」の表現方法
日本語		疑問文や「たい」文などを用いる。(婉曲的)
ロシア語		命令形を用いる。(直接的)

4.3.3.2 許可

<p>てくれる：許可 正答率高 問題 14：89.29% 正答率低 問題 7：53.57% 誤差 35.72%</p> <p>問題 14. A：次の発表は私に_____。 B：分かった。 a やらせてあげます b やろう c やらせてください d やった e ()</p> <p>問題 7. (電話で) A：遅刻しちゃった。今日のテスト、_____かな。 B：山田先生なら、大丈夫だよ。 a 受けさせてあげる b 受けよう c 受けた d 受けさせてくれる e ()</p>

問題間で差が出た要因として、助詞が関係していると考えられる。一人称である「私」に二格を用いることができる授受補助動詞は「てくれる」のみである。一人称の「私」に二格を用いたものが正答となる問題は、「許可」の問題 14 に加え、「叙述」の問題 3, 問題 16 である。これらの正答率はいずれも 75% を上回っていることから、「てくれる」文の「～が～に～てくれる」が習得できているといえる。しかし、該当問題が 3 問と少ないことに加え、授受補助動詞が用いられる文の表現類型として最も典型的な「叙述」であったことから、この考察がどの程度一般化できるかを知るために、今後も調査を行う必要がある。

<p>てもらう：許可 正答率高 問題 4：60.71% 正答率低 問題 12：46.43% 誤差 14.28%</p> <p>問題 4. A：ごめん。頭が痛いから、今日の飲み会は_____かな。 B：いいよ。家でゆっくり休んで。おだいじに。 a 休ませてあげない b 休ませてもらえない c 休まない d 休ませた e ()</p> <p>問題 12. 警察官：かばんの中を_____。 A：分かりました。はい、どうぞ。 a 見た b 見させてもらいます c 見させてくれます d 見させてあげます e ()</p>

「4.3.3.1 依頼」でも述べたように「てもらう」を使用する「許可」の文の問題においても否定語の有無が正答率に影響を与えていると考えられる。否定語の「ない」を用いた問題 4 の正答率が約 60% であるのに対して、否定語の「ない」を用いなかった問題 12 は、正答率が約 46% であったことから、やはり、授受補助動詞に否定語の「ない」を付ける表現は学習者にとって習得しやすい項目であるといえる。

4.4 指導上の注意点

以上の調査結果と考察を踏まえ、ロシア語を第一言語とする日本語学習者に授受補助動詞を指導する際の注意点を以下の表6にまとめる。

表6 授受補助動詞を用いた文の表現類型ごとに見た指導上の注意点

表現類型	注意点
①叙述 「てあげる」、「てもらう」	・主語が同一であるため、授受補助動詞が持つ「方向性」を理解させる。
「てくれる」	・日本語とロシア語の違いを明示する。 ・主語の違いを理解させる。
②依頼 「てくれる」、「てもらう」	・行為の決定権が聞き手であることを明示する。(疑問文や、「たい」文などを用いることに注意)
③指示 「てくれる」、「てもらう」	・行為の決定権が話し手であることを明示する。(命令形や、断定表現などを用いることに注意) ※ロシア語は「依頼」と「指示」いずれも表現方法が同じであることに注意する。
④許可 「てくれる」、「てもらう」	・本動詞が使役動詞であることに注意する。

5. おわりに

5.1 まとめ

本研究では、①「てくれる」の使用は、「てあげる」、「てもらう」の使用と比べ困難と言えるのか。②「行為者が聞き手」という共通点を持つ「てくれる」と「てもらう」は、表現類型によって習得のしやすさは異なるか。以上2つの問題を明らかにするために、多肢選択式のアンケート調査を行った。その結果、以下のことが明らかになった。⁸

①の問題に関して、「てあげる」と「てくれる」は、正答率がいずれも70%以上と高かったのに対し、「てもらう」は、60%以下と比較的低かった。理由は日本語教科書中の記述にあると考えられる。理由は以下の2点である。

1つ目は、多くの日本語教科書において、「てあげる」と「てもらう」は同時に扱われるが、その中でも、まず「てあげる」が扱われることが多いため「てあげる」が印象に残りやすい。

⁸ 授受補助動詞は、上で述べた表現類型の他に「皮肉」を表す場合がある。基本形の場合「てくれる」(「とんでもないミスをしてくれたな。')と「てもらう」(「ここに車を置いてもらっては困る。')を用い、表現することができる。この「皮肉」を表す文についてもアンケート調査を計4問(「てくれる」2問、「てもらう」2問)行った。結果は、いずれも正答率が40%以下と低かった。原因として、授受補助動詞を用いた「皮肉」文を日常生活や日本語教科書であまり目にしないことや、指導する際の重要度が低い(姫野2006)が挙げられる。調査者も2節で扱った表現類型と比べ、指導する際の重要度が低いと考えるため、本稿においては詳細な分析は省略する。

2つ目は、「てくれる」に関しては、日本語教科書内でも「てあげる」、「てくれる」と同時ではなく、独立して扱われ、教師が注意を払って指導している可能性が高いため正答率が高かった。

しかしながら、「てくれる」、「てもらう」が正答となる問題において、「てあげる」を過剰に選択する傾向が見られた。今後の課題として、記述式等も設問を用い、より詳細な分析を行う必要がある。

②の問題に関して、「指示」を表す文の問題は、「てくれる」の正答率が高く、「てもらう」の正答率が低かった。「てくれる」の場合、命令形「てくれ」を用いることで直接的な「指示」を表すことができ、これは「てくれる」のみが持つ特徴であるため正答率が高かったと考えられる(「てもらう」にも命令形「てもらえ」が存在するが、受益者が話し手、行為者が聞き手という条件下では使用できない。)

「依頼」と「許可」に関しては、問題間で正答率に大きな差があり、「てくれる」と「てあげる」間の考察は行えなかった。今後の課題としたい。

5.2 今後の課題

本研究では、授受補助動詞が用いられる文の表現類型に着目し、ロシア語を第一言語とする日本語学習者を対象に習得上の問題点を言及した。最後に今後の課題を述べておきたい。

まず、多肢選択式アンケート調査の方法に関して、ウクライナの大学1校を対象にアンケート調査を行ったが、データ量という観点から考えると、対象とする学校および学習者数を増やすことが必要であると思われる。加えて、各学校のカリキュラム、教材、教室活動などを調査し、それが習得にどのような影響を与えるかということについても調べる必要がある。また、本研究で明らかになった習得上の問題点がどの程度一般化できるのかについて、他の言語を第一言語とする日本語学習者についても調査を行う必要がある。結論の一般化に関しては、今回のアンケート調査では、各項目につき問題を2問ずつ設定したが、習得の傾向をより正確に把握するためには、問題数を増やすことが必要だと思われる。また、授受補助動詞の習得に関して網羅するのであれば、丁寧形やぞんざい形についても調査を行い、基本的な形式(「てあげる／てくれる／てもらう)との習得度合いの比較を行う必要がある。いずれも今後の課題としたい。

参考文献

- アサノワ グリザル(2013)「キルギス人日本語学習者の授受本動詞の誤用について」『言語科学論集』17, pp.35-46, 東北大学.
- 安徳ニーナ・木村英明・柴田信子・杉山秀子・堤正典・中本信幸(2011)『поговорим о том,о сём』大学書林.
- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
- 稲垣兼一(1997)『新ロシア語文典』吾妻書房.
- 宇多文雄(2009)『ロシア語文法便覧』東洋書店.
- 宇多文雄・原ダリヤ(2007)『ロシア語通訳教本』東洋書店.

- 大塚純子(1995)「中上級日本語学習者の視点表現の発達について—立場志向文を中心に」『言語文化と日本語教育』9(水谷信子先生退官記念号), pp.281-292, お茶の水女子大学日本言語文化学会.
- 坂本正・岡田久美(1996)「日本語授受動詞の習得について」『アカデミア, 文学, 語学編』61, pp.157-202, 南山大学.
- 城田俊(2010)『現代ロシア語文法』東洋書店.
- 萩原章子(2007)「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の文法性判断テスト—学習者の日本語履修歴とのかかわりにおいて—『ICU 日本語教育』4, pp.3-19, 国際基督教大学.
- 水谷信子(1997)「誤用分析Ⅱ」『日本語誤用分析』pp.54-108, 明治書院.
- 姫野伴子(2006)「日本語学習者のための授受動詞の体系記述—類似・対立する形式との関連を中心に—」『留学生教育』8, pp.33-52, 埼玉大学.
- 森由紀(1996)「補助授受動詞をめぐる考察」『人文論業: 三重大学人文学部文化科学研究紀要』13, pp.77-83, 三重大学.
- 森田良行(2002)『日本語文法の発想』ひつじ書房.
- 森田良行(2006)『日本語類義表現辞典』東京堂出版.
- 森田良行(2008)『動詞・形容詞・副詞の事典』東京堂出版.
- 守屋三千代(2002)「日本語の授受動詞と受益性—対象的な観点から—」『日本語日本文学』12, pp.1-22, 創価大学.
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」—』明治書院.

【資料】

資料① 学習者を対象としたアンケート調査の設問項目⁹

- a-dの中から最も適切だと思うものを1つ選んで、文を完成させてください。
適切なものがないと思う場合は、e ()の中に自由に記述してください。
Выберите правильный ответ и закончите предложение. Если вы думаете, что там нет правильного ответа, впишите свой вариант в круглую скобку “e”.
1. 先生：では、みなさん、教科書の15ページを_____。
Aさん、読んでください。
A : はい。
a 開いてあげます b 開いてもらいます c 開きました d 開いてください
e () (指示)
2. A : ごめん。そのバッグ_____?
B : はい。とても重いですね。
a 取ってくれる b 取ってあげる c 取ろう d 取らない
e () (依頼)
3. 彼女がぼくのためにケーキを_____。
a 作ってくれた b 作ってあげた c 作ろう d 作って
e () (叙述)

⁹ 本稿ではルビの記載を省略する。

4. A: ごめん。頭が痛いから、今日の飲み会は_____かな。
 B: いいよ。家でゆっくり休んで。おだいじに。
 a 休ませてあげない b 休ませてもらえない c 休まない d 休ませた
 e () (許可)
5. (困っている B を見て) A: 明日の準備, _____。
 B: え? 本当? 助かるよ。ありがとう!
 a 手伝ってくれるよ b 手伝ってあげるよ c 手伝ってもらようよ
 d 手伝ったよ e () (叙述)
6. A: もうお昼ご飯食べた? 朝早く起きてお弁当を作ったから、
 良かったら_____んだけど。
 B: いいの? ありがとう。
 a 食べてもらいたい b 食べてあげたい c 食べてくれた d 食べた
 e () (依頼)
7. (電話で) A: 遅刻しちゃった。今日のテスト, _____かな。
 B: 山田先生なら、大丈夫だよ。
 a 受けさせてあげる b 受けよう c 受けた d 受けさせてくれる
 e () (許可)
8. 昨日、マイクさんから日本語を勉強するための本を_____。
 a 貸してあげました b 貸してもらいました c 貸しました
 d 貸してくれました e () (叙述)
9. 上司: 今月までにこの仕事を_____ことになった。
 部下: はい、わかりました。がんばります。
 a やってあげる b やってもらう c やってくれる d やらない
 e () (指示)
10. 子ども A: だれか明日ぼくと_____かな。
 子ども B: ぼく時間あるよ。あそぼう。
 a あそんでもらった b あそんであげない c あそんでくれない
 d あそんだ e () (依頼)
11. 私: トムさんが日本へ来たら、私が_____。
 トム: ありがとう。来年必ず日本へ行くよ。
 a 案内してもらおうよ b 案内してくれよ c 案内してあげるよ
 d 案内したよ e () (叙述)
12. 警察官: かばんの中を_____。
 A: 分かりました。はい、どうぞ。
 a 見た b 見させてもらいます c 見させてくれます
 d 見させてあげます e () (許可)
13. (学校で) 私は明日、ゆうた君にスピーチの内容を_____つもりだ。
 a 考えよう b 考えてもらおう c 考えた d 考えてくれる
 e () (叙述)

資料② 学習者を対象としたアンケート調査 選択肢別回答数¹⁰

選択肢 問題	a	b	c	d	○e	×e	無回答
1 く・指示	1	1	0	25	1	0	
2 く・依頼	10	12	4	0	0	2 (1)	
3 く・叙述	21	7	0	0	0	0	
4 も・許可	3	17	5	2	0	1	
5 あ・叙述	3	20	2	1	0	2 (1)	
6 も・依頼	7	18	0	3	0	0	
7 く・許可	5	5	2	15	0	1 (1)	
8 も・叙述	1	16	5	5	0	0	1
9 も・指示	8	11	7	1	0	1 (1)	
10 く・依頼	2	1	20	5	0	0	
11 あ・叙述	3	3	20	2	0	0	
12 も・許可	2	13	7	4	0	2 (2)	
13 も・叙述	0	16	1	6	0	4 (4)	1
14 く・許可	0	2	25	0	0	1	
15 も・依頼	1	20	7	0	0		
16 く・叙述	4	3	0	21	0	0	
17 く・指示	20	2	2	2	2	0	
18 も・指示	9	4	3	11	0	0	1

¹⁰ 「く」は「～てくれる」, 「も」は「～てもらう」, 「あ」は「～てあげる」を指す。

「○e」は、正答と同じ授受補助動詞を用い、かつ正しい文であるものを指す。「×e」の括弧は、正答と同じ授受補助動詞は用いていないものの、正しい文であるものを指す。選択肢 e の回答一覧は、【資料③】に示す。

資料③ 学習者を対象としたアンケート調査 選択肢 e 回答一覧

	正答と同じ授受補助動詞を用い、かつ正しい文であるもの	正答と同じ授受補助動詞は用いていないが正しい文であるもの	非文であるもの
1 く・指示	開けてください：1		
2 く・依頼		取って もらえませんか：1	取って くれましたか：1
4 も・許可			休ませて：1
5 あ・叙述		手伝おうか：1	手伝っている：1
7 く・許可		受けさせて もらえない：1	
9 も・指示		やらないといけない：1	
12 も・許可		見させてください：1 見せてください：1	
13 も・叙述		考える：2 考えてあげる：2	
14 く・許可			やらせて もらった：1
17 く・指示	運んでください：1 運んで くれませんか：1		

Analysis on the Acquisition of Subsidiary Verbs to Express Transfers with a Focus on Expression Patterns of Sentences: for Students Whose First Language is Russian

YOSHIKAWA Takuya

This article illustrates factors which influence learners of Japanese, whose first language is Russian, when they learn subsidiary verbs to express transfers and important instruction points, based on a survey conducted for those learners with a focus on expression patterns of sentences which used those subsidiary verbs. The result of the survey showed that they were wrong more often and had difficulties learning “*temorau* (have someone do something for you)” than “*tekureru* (someone does something for you)” when these subsidiary verbs were used in sentences which expressed “description” and “direction”. Also,

though they were comparatively more often correct in using “*tekureru*”, they showed a tendency to confuse it with “*teageru* (do something for someone)”. Most previous research about the learning of subsidiary verbs to express transfers was focused on “person” and “course of action”, and few paid attentions to “expression patterns”. This research is significant since it describes factors which influence the learning of the subsidiary verbs from the viewpoints of “expression patterns”.

Keywords: sentences with subsidiary verbs to express transfer, expression patterns, Japanese language education.